



盛岡市プレスリリース

～輝きが増し 活力に満ち 夢をかなえるまち盛岡～

令和8年4月16日
教育委員会事務局歴史文化課

市政記者クラブ加盟社 各位

盛岡藩家老席日記「覚書」^{おぼえがき}刊行事業への寄附 に係る感謝状贈呈式について

このたび、盛岡藩家老席日記「覚書」刊行事業のため、盛岡市に寄附を賜りましたので、下記の日程により、感謝状贈呈式を行います。

つきましては、市民の皆様への周知について、御配慮くださいますようお願いいたします。

記

【日時】 令和8年4月17日（金）午後1時30分から

【場所】 盛岡市役所本庁舎4階 市長応接室（盛岡市内丸12番2号）

【経緯等】

市では県指定有形文化財の盛岡藩家老席日記「覚書」について、書籍としての刊行事業を進めていましたが、市総合計画策定に伴う事業見直しのため、令和7年度において一旦事業を中断する状況となりました。

事業再開について岩手史学会など各所から要望を受けていたところ、そうした状況を知り、事業再開に向けた支援により盛岡市の文化教育事業に貢献したいとして、この度、事業完了までに予定される必要な費用について、寄附をいただいたところです。

本市では、この度の御厚意により、令和8年度に事業を再開することが可能になったところであり、改めて感謝状の贈呈を行うものです。

【寄付金額】 891万円

【出席者（予定）】

（寄付者）盛岡石桜会常任理事 佐藤忠男 様
（株式会社プライムホーム会長（本社：東京都））
（同席者）盛岡石桜会元会長 小枝指博 様
（ 〃 ）盛岡石桜会常任理事 赤澤征夫 様
（ 〃 ）盛岡石桜会元常任理事 吉田徳三 様

（盛岡市）盛岡市長 内館 茂
（ 〃 ） 教育部長 下田法子
（ 〃 ） 歴史文化課長 遠藤征司

【覚書とその刊行について】

盛岡藩の家老職による藩の政務や出来事などについて記載された資料。「覚書」の前の年代に書かれた「雑書（岩手県指定有形文化財）」とともに、200年以上にわたる記録として、盛岡の歴史、日本における地方史を知る上で貴重な資料である。書籍による刊行については、「雑書」が50巻を刊行済み、「覚書」については全12巻の発行予定のうち、現在6巻までが発行済みである。（詳細は別紙）

【その他】

盛岡藩家老席日記「覚書」の学術的な詳細については、もりおか歴史文化館（019-681-2100）までお問い合わせください。なお、当館学芸員は、贈呈式当日同席いたします。

【担当】

盛岡市教育委員会事務局歴史文化課
担当：阿部（あべ）
電話：019-639-9067

盛岡藩家老席日記「覚書」について

1 覚書とは

盛岡藩家老席日記「覚書」は、農林業・漁業・鉱業や年中行事など領内の様々な事象が記され、盛岡藩雑書と合わせ、江戸時代をほぼ網羅する盛岡藩の藩庁日記（1644～1870年）である。

2 「覚書」刊行事業について

盛岡藩雑書の刊行に続き、盛岡藩家老席日記「覚書」105冊分について、12巻の刊行を進め、そのうち6巻分を刊行済。新たな総合計画の策定に係る事業の見直しており、令和7年度以降の残り6巻分の刊行事業について、一時休止とされていた。今回の寄附を受けて、事業を再開することとしており、令和8年度は2巻分の刊行を予定している。残る4巻分についても、令和9年度以降の刊行に向けて、委託先の出版社、校正者と協議を進めていく予定である。

なお、盛岡藩家老席日記「覚書」については、岩手県立博物館監修により、元治2年（慶応元年）（1865）～明治3年（1870）分が刊行済みであり、市の刊行事業では、文久4年（元治元年）（1864）までを対象としている。

3 名称・員数

盛岡藩覚書 105冊

4 種別

岩手県指定有形文化財

5 所有者

盛岡市

6 収蔵場所

もりおか歴史文化館（盛岡市内丸1番50号）

